

- 02 市民総ガイド構想  
アプリを使って  
レッツ! コミュニケーション
- 04 市長コラム
- 05 目次  
イベント情報
- 06 行政情報
- 11 高校生の神楽甲子園が開幕
- 12 健康いいカラダ
- 14 いきいき介護
- 15 リレーコラム  
ブラジルからの移住者  
土本 哲郎さん
- 16 げんきな親子
- 18 としょもっ!
- 20 HOTな話題
- 21 人輝く  
国民年金のあれこれ
- 22 消防  
警察
- 23 歴史紀行
- 24 トピックス/募集/相談
- 25 10月の相談
- 26 およろび・おくやみ
- 27 安芸高田のアイドル



〈今月の表紙〉  
「翻訳アプリを使って外国人と  
コミュニケーションをとる高齢者大学の参加者」

本庁・支所連絡先

安芸高田市 ☎お太助フォン 42-2111 (代)  
八千代支所 ☎お太助フォン 52-2111  
美土里支所 ☎お太助フォン 54-0311  
高宮支所 ☎お太助フォン 57-0311  
甲田支所 ☎お太助フォン 45-4111  
向原支所 ☎お太助フォン 46-3111

市役所開庁時間 8:30~17:15  
(土曜・日曜日、祝日、年末年始は閉庁)

安芸高田市  
ホームページ  
https://www.akitakata.jp



10月のイベント情報

今月開催の市内イベント情報をお知らせします

10/12土 高宮神楽まつり

所 高宮ハーモニー広場 (高宮町佐々部)  
時 17時~24時  
図 高宮田園パラッツォ ☎お太助フォン57-1803  
高宮町の神楽団を中心に9演目を上演。深夜まで舞い続ける伝統の神楽は広島県無形文化財の指定を受けています。



10/13日 こうだわいわい祭

所 甲田文化センターミュージズ前広場(甲田町高田原)  
時 9時~16時  
図 甲田支所 ☎お太助フォン45-4111  
五龍太鼓、深瀬ひよっこ踊り、梨の皮むき、サンチェ体操、消防音楽隊、琉球國祭り太鼓などのステージなどを予定しています。



10/13日 博物館公開講座  
大内氏遺跡の発掘調査成果と毛利氏

所 歴史民俗博物館 (吉田町吉田) 時 13時30分~ 図 無料  
定員 60名 (先着) ※要予約 講師 青島啓さん (山口県教育委員会文化財保護課)  
図 歴史民俗博物館 ☎お太助フォン42-0070

戦国時代、中国地方に強大な勢力を誇っていた大内氏。毛利氏は大内氏の傘下に入り勢力を拡大、やがて大内氏を滅ぼします。講座では西の京とも言われた本拠・山口市にある大内氏館跡などの発掘調査の最新の成果を中心に毛利氏との関係についても紹介します。



10/20日 たかみや大地の祭り

所 高宮支所・高宮ハーモニー広場(高宮町佐々部)  
時 9時~15時30分  
図 高宮支所 ☎お太助フォン57-0311  
「味・音・遊び・環境・健康」をテーマに秋の一日を満喫。毎年恒例の長〜い巻き寿司は219mに挑戦。  
※巻き寿司作りはどなたでも参加できます。



サンフレッチェ広島	日時	対戦相手
10月・11月の公式戦日程 (ホームゲーム) 会場:エディオンスタジアム広島	10/5 (土) 16時~	ヴィッセル神戸
	11/9 (土)※ 14時~	浦和レッズ
	11/23 (土・祝)※ 14時~	鹿島アントラーズ

※AFCチャンピオンズリーグ 2019で浦和レッズ・鹿島アントラーズが決勝に進出した場合は試合日時が変更になります。

ワクナガレオリック	日時	対戦相手
10月・11月の公式戦日程 (ホームゲーム) 会場:湧永満之記念体育館	10/12 (土) 14時~	ゴールデンウルヴス福岡
	11/16 (土) 14時~	トヨタ車体



「農福連携」による地域活性化

日本は、人口減少・少子高齢化の影響により、農業に携わる人が減少し、後継者不足や耕作放棄地の問題を抱えています。一方、福祉分野では、障害者の就業率は一般よりも低く、障害者の働く機会が求められています。こうした農業分野と福祉分野における課題を解決するため、農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業の発展とともに障害者の生きがいや雇用を創出する「農福連携」の取り組みが注目されています。

政府はこの取り組みを強力に進めているため、今年度から「農福連携等推進会議」を設置しました。有識者としてTIO KIOの城島茂さんが参画されたことでも、マスコミや国民から広く注目されたことは記憶に新しいと思います。そこで決定された「農福連携等推進ビジョン」では、令和6年度までに農福連携等に取り組む主体を新たに3千創出することが明らかにされています。

全国でも「農福連携全国都道府県ネットワーク」の設立や、厚生労働省が支援する「農福連携による就農促進プロジェクト」を実施する自治体が昨年度42に達

するなどの広がりを見せています。広島県では、昨年、県初の試みとして、「農福連携マルシェ」を紙屋町シャレオ中央広場で開催し、県内の障害者就労施設で作られた野菜やその野菜を使った加工品などの販売や歌のステージなどのイベントを行いました。

農福連携の手法はいろいろ考えられますが、障害者就労施設と農家や農業法人が契約し、施設外就労という形で農作業の一部を請け負う方法が、両者にとってハードルが低く、受け入れやすく持続しやすい取り組みと考えられます。本市においても、市内の就労継続支援B型事業所と果樹農家が契約し、袋かけ等の作業をする中で、お互いにメリットのあるwin-winの関係が構築された事例があります。また、農作物が育つ過程においては、多くの作業が存在します。作業工程を細分化し、障害者の個々の特性と上手くマッチングしていくことで、障害者の働く場を生み出すだけでなく、丁寧に関わるにより品質の向上や付加価値を生み出すことができます。さらには、1次産業から6次産業へと広がっていけば、雇用の創出も期待できます。



梨の袋かけ作業

このように、農福連携は農業分野・福祉分野における課題の解決方策であるだけでなく、地域の活性化に大きく貢献する取り組みといえるのです。

「障害があるからできない」ではなく、障害があってもなくてもその人らしく自らの持つ力を発揮し、一緒に安芸高田市に活力を与えてもらいたいと思います。その一つの手法として、本市の地域性を活かした農福連携の形を模索していきま